

新しい未来へ

宮崎国際大学
開学30周年

① Miyazaki International University

宮崎市の宮崎国際大は今年、1994年の開学から30周年を迎えた。国際教養、教育学部の特徴ある授業や就職、地域連携などの取り組みを紹介する。

◇ 「自分の教育理念にこだわり、貫く方だった」。大学創設者で理事長などを務めた大坪久泰さん(故人)を、補佐として長年支えた西村

成り立ち



大学を創設した大坪久泰さんの教育理念などについて話す西村直樹副学長

グローバル人材育成
少人数で思考、発信力磨く

直樹副学長は懐かしむ。「日本文化と外国の諸文化に精通し、かつ、優れた英語力をもつ国際人を養成する」という崇高な理念と目標を持っていたと振り返る。

大学は比較文化学部比較文化学科(現国際教養学部)の1学部1学科でスタート。教員の8割以上が外国人、授業は英語で少人数。海外研修も必修。現在では当たり前となったが、当時は時代を先取りした先進的な取り組みだった。

そこには、大坪さんの体験が関係する。防衛庁(現防衛省)の技術研究者だった1972(昭和47)年、

米海軍へ派遣された。米国人の柔軟な思考と広い視野に驚き、日本人エリートとの違いを感じた。その米国人たちは、少人数でさまざまな学問分野を問題意識を持って幅広く学ぶ「リベラル・アーツ」系の大学出身だった。また国際学会などで、日本人の英語力の弱さや国際教養の乏しさを痛感していた。

大坪さんは父親から引き継いだ学校法人で大学を創設するに当たり、「リベラル・アーツ」系の大学出身だった。また国際学会などで、日本人の英語力の弱さや国際教養の乏しさを痛感していた。

国際教養学部4年

木田 朋花さん(24)



ヨーロッパや北米などの多彩な経歴を持つ先生が在籍しており、グローバルな視点をリアルに感じることができる。教員と学生の距離が本当に近く、学びたいという学生を100%応援してくれる。元々積極的な性格だったが、4カ月間の米国留学でさまざまなボランティアに参加し、何事もまず挑戦してみようと思うようになった。卒業後はホテルコシエルジュとして働く。大学で培った英語力を生かしていきたい。

学生・職員紹介